

International EMECS Center

International Center for Environmental Management of Enclosed Coastal Seas

EMECS



For the Environmental Management and Appropriate Use of Enclosed Coastal Seas

閉鎖性海域の環境の保全と適正な利用をめざして

設 立 1994年11月 国際エメックスセンター設立
 2000年4月1日 財団法人発足（内閣総理大臣設立許可 環境庁所管法人）
 2001年5月7日 （外務大臣・環境大臣変更許可 外務省・環境省共管法人）
 2012年3月1日 公益財団法人移行（内閣総理大臣移行認定）

会 長 鈴木基之

理 事 長 齋藤元彦

基本財産 約12億円（2012年4月現在）

所 在 地 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番2号
 人と防災未来センター東館5F

設立目的 センターは、行政、研究者、事業者、市民等の各主体間の有機的ネットワークを構築し、国際的かつ学術的な交流を推進するとともに、調査研究及び研修の実施並びに活動に対する支援等の事業を行い、もって閉鎖性海域の環境の保全・創造及び多様な自然と人間が共生する持続的発展が可能な社会の構築に寄与することを目的とする。

事 業 (1) 閉鎖性海域に関する情報の収集及び提供
 (2) 閉鎖性海域の環境の保全・創造に関する調査研究
 (3) 閉鎖性海域の環境の保全・創造に関する研修の実施
 (4) 閉鎖性海域の環境の保全・創造に関する活動に対する支援
 (5) 閉鎖性海域の環境の保全・創造に関する国際機関等の活動に対する協力と連携
 (6) 国際会議の開催等閉鎖性海域の環境の保全・創造に関する国際交流の推進
 (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

ごあいさつ

【私たちと海】

海は、かつて地球上に生命を生みだした母体であり、海水は地球上のほとんど全ての生物体の生育にとって必要となる多様な物質を含んでいます。私たちは水平線に及ぶ大海の前に立ち、心の故郷としての海、自然の猛々しさを教えてくれる海、食料としての海産物を育んでくれる海、そのほかにも海は人間にとって諸々の恩恵（生態系サービス）を提供してくれていることに思いを馳せ、海とのつながりに感動を覚えます。私たちの気づかぬところでは、巨大な水域としての海は地球上の気候を調整するという大きな機能を果たしていますし、陸上の生物体が依存する淡水は、海から蒸発する水蒸気によって賄われています。



公益財団法人
国際エメックスセンター

会長 鈴木 基之

【沿岸域の重要性】

海の占める面積は地球全表面積の70.8%を占め、海の平均深度は3800mに及ぶとされています。海洋中の多様な生き物を育てる源泉は、太陽エネルギーにより増殖する植物性プランクトンや、藻類であり、これらは主として陸地に接する浅い海において繁殖し、海域の複雑な生態系を支えています。

この重要な機能を持った「沿岸域」は、その占める面積は海の全面積の0.1%程度と推定される僅かな部分です。陸上の人間活動の大きな部分は海と接する陸域で営まれており、沿岸域はその影響を強く受ける場であることは言うまでもありません。

沿岸海域の生態系の保全を、膨張しつつける人間活動といかに調和させつつ行うか、これは人類にとっての大きな課題であります。因みに、過去30年間（1990年以降、ほぼ「平成」の時代）で、世界の人口は1.4倍弱、経済活動（世界総生産）は4倍に増しており、この人間活動の拡大傾向は、しばらくの間、止まりそうにありません。

既に、1990年頃は沿岸域においても特に人間活動の影響が顕著な、「閉鎖性海域」において水質、水環境の劣化は著しく、世界共通の課題として、瀬戸内海を初めとする「閉鎖性海域」の環境管理に関心が高まり、本センターの発足につながっているのです。

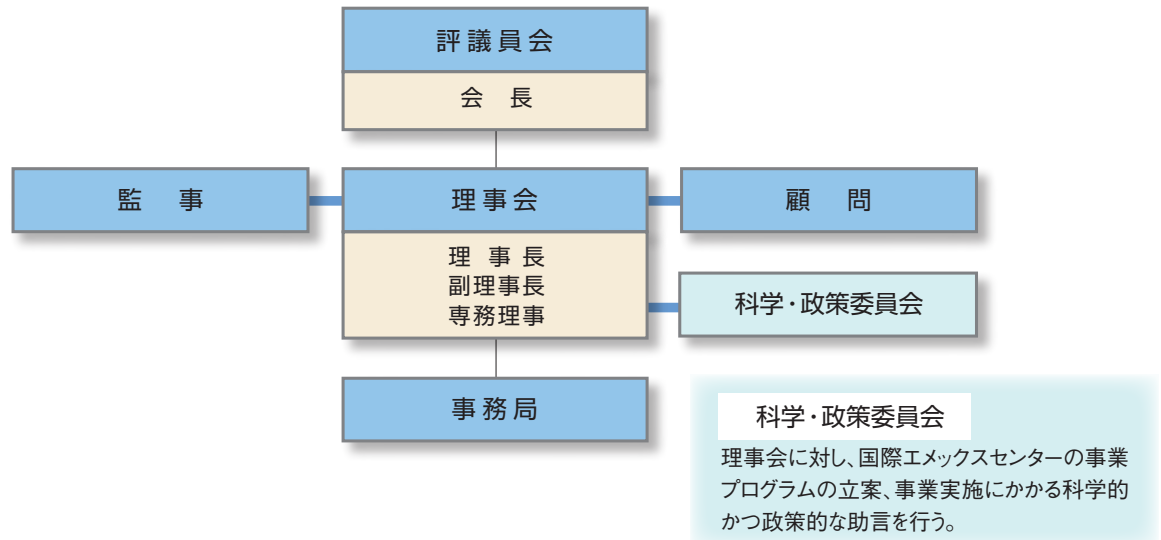
【センターの役割】

本センターは以後30年の間、国際会議として、EMECS会議を2-3年に1度、世界各地の回り持ちで開催し、代表的な閉鎖性海域に関する環境情報、環境管理手法などの国際的な情報共有が図られてきました。

かなりの水域において環境改善が図られ、国際的なネットワークも構築されてきてはいますが、次々と認識され、解決を迫られる海洋環境の課題は、一層重要性を増しております。地球温暖化、海洋の酸性化は海の生態系に関してもボディーブローで効いてくるでしょう。近年、特に関心を集めている海域のプラスチックごみ問題についても、一旦海域に排出されたものにどう対処するか、容易ではない課題です。

2015年に国連において合意された持続可能な開発目標（SDGs）においても「目標14：海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する」が設定されています。持続可能な「海域と人間活動との関係」を構想し、現実的、具体的、定量的な目標を設定し、その実施に向けた策を検討する母体として、EMECSセンターの今後の役割も飛躍が求められることでしょう。ご関心をお持ち頂いている皆様のご支援をお願い申し上げます。

閉鎖性海域の環境の保全・創造と多様な自然と人間が共生する持続的発展が可能な社会をめざして



年表

1971年	瀬戸内海の環境保全に取り組む組織として「瀬戸内海環境保全知事・市長会議」が発足 瀬戸内海環境保全憲章を制定
1973年	瀬戸内海環境保全臨時措置法制定 公布
1976年	瀬戸内海環境保全特別措置法制定 公布 官民共同の瀬戸内海の環境保全活動団体として「瀬戸内海環境保全協会」発足
1987年	米国メリーランド州からイアン・モリス博士を中心とする閉鎖性海域調査団が来日し国内関係団体と意見交換協議 知事・市長会議で共同宣言「新しい瀬戸内海の創造に向かって—瀬戸内アピール’87」を採択
1990年 8月	神戸市で「世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス90）」を環境庁 瀬戸内海環境保全知事・市長会議 瀬戸内海環境保全協会 兵庫県神戸市および総合研究開発機構の主催で開催 発展途上国に対する閉鎖性海域環境管理技術移転研修 情報交流紙「エメックスニュースレター」の発行などを開始
1992年	エメックス90 「瀬戸内海宣言」に基づき学際的研究者集団「瀬戸内海研究会」が発足
1993年11月	米国メリーランド州ボルチモア市で第2回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス93）開催 エメックス93宣言で「国際エメックスセンター」の設立推進を確認
1994年	(社)瀬戸内海環境保全協会の定款改正 事業に閉鎖性海域環境保全に係る国際的活動を加え そのための資産として「閉鎖性海域環境保全国際基金」を設置 閉鎖性海域環境保全に係る国際的組織設立準備委員会が発足
1994年11月	「国際エメックスセンター」設立 第1回理事会評議員会科学委員会を開催
1997年 8月	スウェーデン・ストックホルム市で第3回エメックス会議（エメックス97）を第7回ストックホルムウォーターシンポジウムとジョイントで開催
1999年11月	トルコ・アンタリヤ市で第4回エメックス会議を第4回メッドコースト会議（地中海沿岸環境会議）とのジョイントで開催
2000年 3月	第14回理事会で国際エメックスセンターの解散と財団法人国際エメックスセンターの設立を決議 財団法人国際エメックスセンターの設立許可申請書を環境庁に提出
2000年 4月	内閣総理大臣より公益法人の設立許可を受け「財団法人国際エメックスセンター」が発足
2001年 5月	外務大臣・環境大臣より公益法人の変更許可を受け「財団法人国際エメックスセンター」が外務省・環境省の共管法人となる
2001年11月	神戸市・淡路島にて第5回エメックス会議を開催
2003年	11月タイ・バンコク市にて第6回エメックス会議を開催
2006年 5月	フランス・カーン市にて第7回エメックス会議を開催
2008年10月	中国・上海市にて第8回エメックス会議を開催
2009年11月	フィリピン・マニラ市にてEAS Congress 2009の特別セッションとして里海国際ワークショップを開催
2011年 8月	米国メリーランド州ボルチモア市にて第9回エメックス会議を開催
2012年 3月	公益財団法人国際エメックスセンターへ移行
2013年10月	トルコ・マルマリスにて第10回エメックス会議をMEDCOAST2013とジョイント開催
2016年 8月	ロシア・サンクトペテルブルクにて第11回エメックス会議をSea Coast XXVIとジョイント開催
2018年11月	タイ王国・パタヤ（ジョムティエン・パームビーチ・ホテル）にて第12回エメックス会議を開催
2020年 9月	イギリス・ハルにおいて第13回エメックス会議をECSA58とジョイント開催（予定）

設立の趣旨

美しい環境を次の世代に手渡すために わたしたちがめざすもの

内湾、内海、多島海など陸域に囲まれた閉鎖性の高い海域は、その恵まれた自然条件ゆえに、古くから漁場、産業活動の場、海上交通及びレクリエーションの場として利用され、豊かな日常生活を支えるとともに様々な文化を育んできました。

我々は、今このような人類共通の財産である閉鎖性海域の恵沢を21世紀に継承していくことが大きな責務であると考えます。

そこで、平成6年11月、瀬戸内海をはじめとする世界の閉鎖性海域の環境の保全に新たな展望を拓くため、「国際エメックスセンター」が関係者、関係機関の協力のもとに設立されました。

以来、同センターでは、平成9年8月にスウェーデン国ストックホルム市で第3回エメックス会議を、平成11年11月にはトルコ共和国アンタルヤ市で第4回エメックス会議をそれぞれ開催するとともに、閉鎖性海域の環境保全に係る総合的な情報を収集・発信するための情報システムの整備やニュースレターの発行、開発途上国の行政官を対象としてエメックス活動に係る人材育成を図るための環境管理技術研修や環境保全セミナーの開催など閉鎖性海域の環境保全のための取り組みを行ってまいりました。

しかしながら世界各地の閉鎖性海域は、一部の海域では環境の改善が進んでいるものの、多くの海域では、生物生息環境の悪化、生物種・個体数の減少、漁獲量の減少が生じており、このままでは閉鎖性海域の環境は更に悪化の一途をたどり、ひいては地球全体の環境にも大きな影響を与えるものと危惧されていることから、同センターに対する対策のより積極的な推進の要請が増してきており、その情報発信機能や調査研究機能の充実が急務となっています。

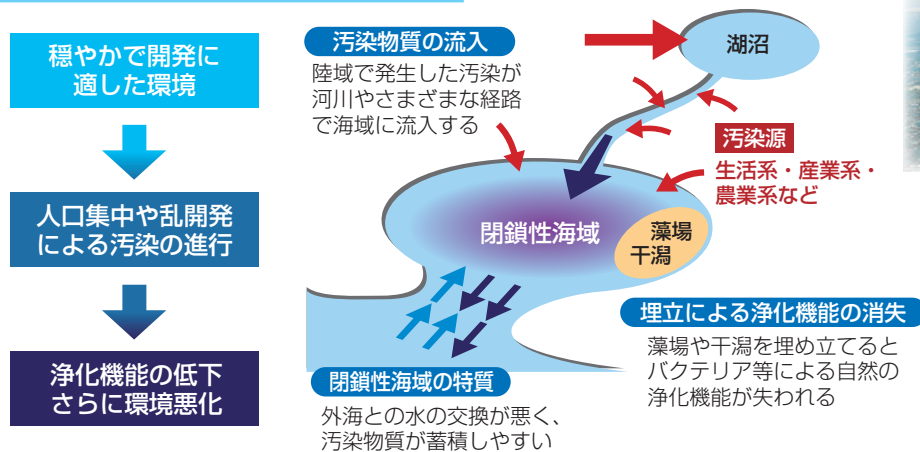
このため同センターを改組して「財団法人国際エメックスセンター」を設立し、運営基盤の確立を図り、行政・研究者・事業者・市民等の各主体間の有機的ネットワークを構築し、国際的かつ学際的な交流を推進するとともに、調査研究及び研修の実施並びに活動に対する支援等の事業を行い、もって閉鎖性海域の環境の保全・創造及び多様な自然と人間が共生する持続的発展が可能な社会の構築に寄与することとします。



閉鎖性海域とは

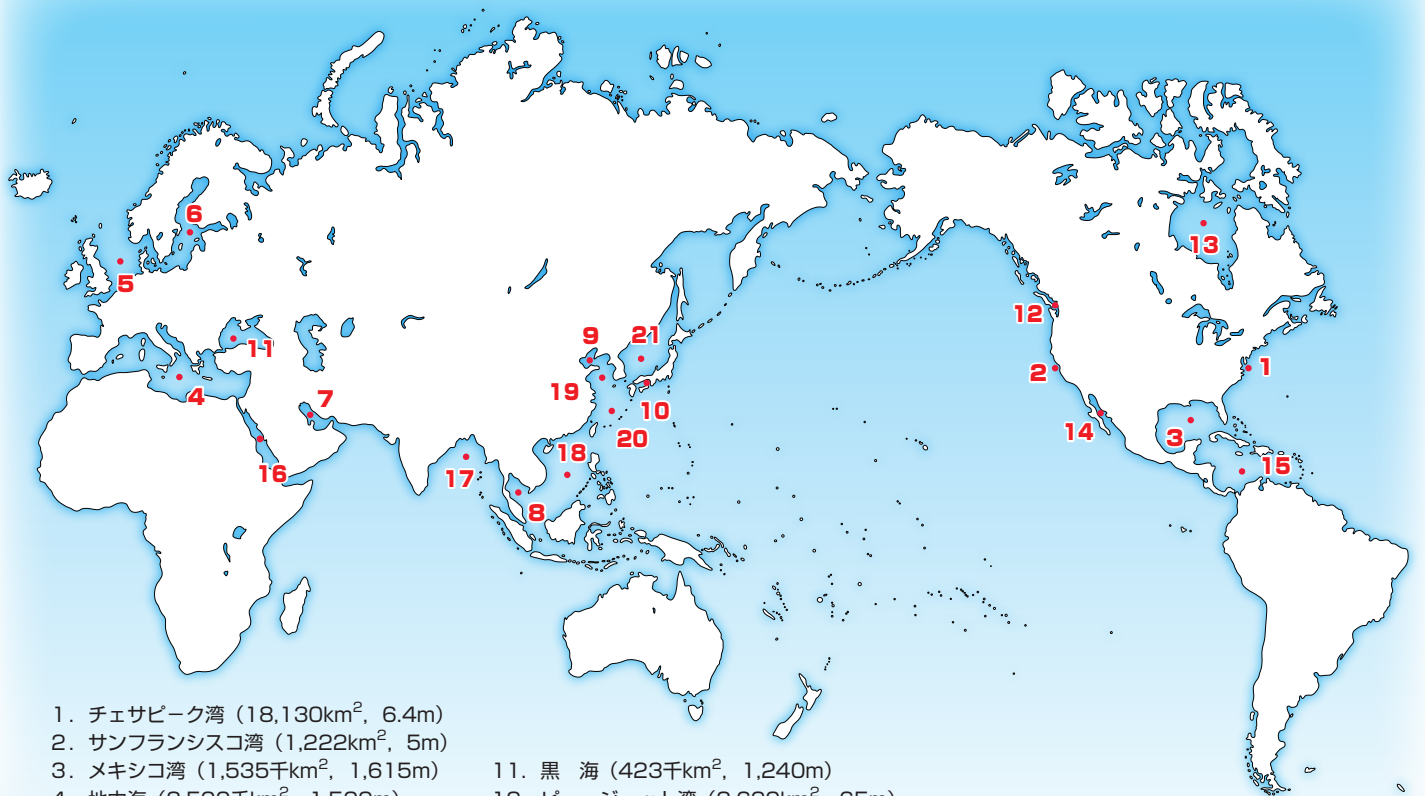
周囲を陸地に囲まれた内湾・内海などの閉鎖性海域は、外海との水の交換が行われにくいいため汚染物質が蓄積しやすく、水質の改善や維持が難しい性質を備えています。一方、閉鎖性海域やその沿岸部は穏やかな自然環境に恵まれ、古くから漁場として利用され、また、産業や交通など空間的資源としても多方面にわたり利用・開発されてきました。このため、人口が集中し、乱開発が行われ、自然の浄化機能が低下して環境の悪化を招きやすくなっています。

閉鎖性海域の水質汚染プロセス



《世界の主な閉鎖性海域》

※当センターで知り得た情報をまとめたもので世界の閉鎖性海域全てではありません



- | | | |
|---|--|--|
| 1. チェサピーク湾 (18,130km ² , 6.4m) | 11. 黒海 (423千km ² , 1,240m) | 19. 黄海 (400千km ² , 100m) |
| 2. サンフランシスコ湾 (1,222km ² , 5m) | 12. ビュージェット湾 (2,600km ² , 65m) | 20. 東シナ海 (752千km ² , 350m) |
| 3. メキシコ湾 (1,535千km ² , 1,615m) | 13. ハドソン湾 (760千km ² , 125m) | 21. 日本海 (1,300千km ² , 1,350m) |
| 4. 地中海 (2,500千km ² , 1,500m) | 14. カリフォルニア湾 (170千km ² , >2,000m) | |
| 5. 北海 (750千km ² , 95m) | 15. カリブ海 (2,516千km ² , >7,535m) | |
| 6. バルト海 (415千km ² , 52m) | 16. 紅海 (440千km ² , 524m) | |
| 7. ペルシャ湾 (260千km ² , 35m) | 17. ベンガル湾 (2,000千km ²) | |
| 8. タイ湾 (320千km ² , 45m) | 18. 南シナ海 (3,600千km ² , >1,200m) | |
| 9. 渤海 (78千km ² , 25m) | | |
| 10. 瀬戸内海 (23,203km ² , 38m) | | |

(水域面積, 平均水深, >は最大水深)



国際エメックスセンターは国連「持続可能な開発目標（SDGs）」の No.14「海の豊かさを守ろう（SDG14）」にボランティアコミット メントを登録しました

世界の海洋はその水温、化学的性質、海流および生物を通じて、地球を人類が住める場所にするシステムを構築しています。この極めて重要な資源をどう管理するかは、人類全体にとって、そして気候変動の影響への対策にとって、本質的な課題となっています。

30億人以上が、海洋と沿岸の生物多様性を頼りに生計を立てています。しかし、今日では世界の漁業資源の30%が乱獲され、持続可能な漁獲を維持するための水準を大きく下回っています。

海洋はまた、人間が作り出す二酸化炭素の約30%を吸収し、産業革命以来、海洋酸性化は26%進んでいます。陸上からの排出が主原因である海洋汚染は危険な水準に達し、海洋1平方キロメートル当たり平均で1万3000個のプラスチックごみが見つかっています。

持続可能な開発目標（SDGs）は、海洋と沿岸の生態系を持続可能な形で管理し、陸上活動に由来する汚染から守ると共に、海洋酸性化の影響に取り組んでいます。国際法を通じて、海洋資源の保全と持続可能な利用を強化することも、私たちの海洋が直面する課題の解決に役立ちます。

海洋資源の保全は、持続可能な開発のための2030アジェンダを構成する17のグローバル目標の一つです。複数の目標を同時に達成するためには、包括的なアプローチが必要不可欠です。

The screenshot shows the EMECS website interface. At the top, there are logos for the United Nations and the Ocean Conference. Below these are navigation tabs: HOME, SDG 14, ABOUT THE CONFERENCE, CALL FOR ACTION, VOLUNTARY COMMITMENTS, COMMUNITIES OF OCEAN ACTION, PREP PROCESS, DOCUMENTATION, EVENTS, NEWS & MEDIA, and ACCOUNT. The main content area is titled "seas (EMECS) by organizing conferences with the participation of researchers, government officers, business persons, citizens, and students. by International EMECS Center (Non-governmental organization (NGO))". Below this, there are tabs for DESCRIPTION, SDG 14 TARGETS COVERED, DELIVERABLES, and RESOURCES MOBILIZED. The DESCRIPTION tab is active, showing a detailed text about the EMECS initiative. On the right side, there are social media icons (Facebook, Twitter, LinkedIn, Pinterest, Email, and a share icon) and a "Progress reports" section. The progress reports section shows a "Progress report due in 9 months (February 2020)" and a "Registered: 5 February 2019" status. At the bottom right, there is a note: "Progress reports are to be submitted once a year until completion of the initiative. Read more. Green = submitted within last 12 months, yellow = due for submission, red = two years due."

閉鎖性海域環境保全等推進事業

国際会議開催等の国際交流

エメックス会議 P9,P10に開催内容掲載

閉鎖性海域の環境問題を総合的に解決するために、国際的・学際的な連携をはかることを目的として、1990年に第1回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス会議）が神戸で開催されました。

その後、エメックス会議は2、3年おきに世界各地で開催されています。それぞれの会議では、研究者、行政官、企業、市民などが幅広く参加し、広範な分野で行われた発表や意見交換をもとに、閉鎖性海域の沿岸およびその後背圏域の統合的な管理や「共有責任」の重要性を“エメックス会議宣言”として全世界に発信しています。



第13回エメックス会議は2020年9月、イギリス・ハルにおいて開催いたします。

エメックス国際セミナー

国内外から学識経験者を招き研究者、行政官、市民、企業などを対象に、世界の閉鎖性海域の現状や課題、統合的環境管理、里海、環境学習など幅広いテーマで情報交換を行う、セミナーやシンポジウムを開催しています。



情報収集整備活用事業

情報の収集及び提供 閉鎖性海域の環境の現状に関する資料収集とデータベース作成

ニュースレターの発行
インターネットを通じた情報の提供・交流

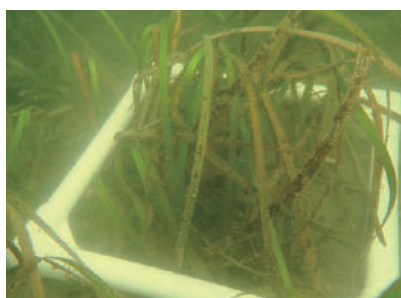


ニュースレター



調査研究

S-13持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発
環境省が実施する「環境研究総合推進費」で平成26年度～平成30年度まで5年間プロジェクト総括として取り組みました。



藻場（高松市 生島湾）



船上調査（南三陸町志津川湾）



詳細、PDFはQRコードのリンク先で閲覧可能です。



人材育成・普及啓発事業

SSP 青少年環境教育交流セッション

エメックス会議では、将来の環境保全のリーダーの育成など環境教育の促進を図るため、2003年に開催した第6回エメックス会議（タイ王国・バンコク）以降、高校生から大学生を対象にした青少年環境教育交流セッション（The Students and Schools Partnership Session：SSPセッション）を開催しています。

セッションでは他国からの参加学生を交えて環境保全に関する発表や情報・意見交換などを行う他、青少年環境教育交流宣言（SSP宣言）を作成し、閉会式で発表します。また、現地の海洋環境について学べる場所を視察します。



環境学習の実施



エメックス会議



第1回 エメックス会議 (エメックス90)

会 期：1990年8月3日（金）～8月6日（月）

開催地：日本・神戸市（ポートピアホテル）

テーマ：閉鎖性海域の環境の保全と適正な利用をめざして

■参加国数：42ヶ国（日本、アメリカ、中国、韓国 他）

■参加人数：1,200名



第2回 エメックス会議 (エメックス93)

会 期：1993年11月10日（水）～11月13日（土）

開催地：アメリカ・ボルチモア（メリーランド大学）

テーマ：効果的な沿岸海域のGovernance（統合管理）に向けて
～科学、政策及び管理により沿岸の環境を持続する

■参加国数：46ヶ国（日本、アメリカ、カナダ、イギリス 他）

■参加人数：2,300名



第3回 エメックス会議

（第3回エメックス／第7回ストックホルム・ウオーター・シンポジウム）

会 期：1997年8月11日（月）～8月14日（木）

開催地：スウェーデン・ストックホルム（ストックホルムシティカンファレンスセンター）

テーマ：川から海へー陸域活動、淡水、閉鎖性海域の相互作用を探る

■参加国数：80ヶ国（日本、スウェーデン、アメリカ、フランス 他）

■参加人数：1,000名



第4回 エメックス会議

（第4回エメックス／第4回メッドコースト ジョイント会議）

会 期：1999年11月9日（火）～11月12日（金）

開催地：トルコ・アンタルヤ（ホテルデデマン）

テーマ：陸域と海域の相互作用、沿岸の生態系の保全

■参加国数：50ヶ国（日本、トルコ、アメリカ、クロアチア 他）

■参加人数：500名



第5回 エメックス会議 (エメックス2001)

会 期：2001年11月19日（月）～11月22日（木）

開催地：日本・神戸/淡路（ポートピアホテル、淡路夢舞台国際会議場）

テーマ：21世紀の人と自然の共生のための沿岸域管理に向けて

■参加国数：41ヶ国（日本、アメリカ、タイ、インド 他）

■参加人数：1,100名



第6回 エメックス会議 (エメックス2003)

会 期：2003年11月18日（火）～11月21日（金）

開催地：タイ・バンコク（モンティエン・リバーサイド・ホテル）

テーマ：自然と人々の持続可能で友好的な共生を図るための包括的な責任ある沿岸域管理

■参加国数：23ヶ国（日本、タイ、インド、中国 他）

■参加人数：600名





第7回 エメックス会議 (EMECS7/ECSA40)

会 期：2006年5月9日（火）～5月12日（金）
 開催地：フランス・カーン(カーン・エキスポ・コンgresセンター)
 テーマ：閉鎖性海域の持続可能な共同発展：私達の共有責任
 ■参加国数：25ヶ国（日本、フランス、アメリカ、イギリス 他）
 ■参加人数：350名



第8回 エメックス会議 (EMECS8)

会 期：2008年10月27日（月）～10月30日（木）
 開催地：中国・上海(上海光大会展中心国際大酒店)
 テーマ：河川集水域と河口域の調和
 ■参加国数：35ヶ国（日本、中国、アメリカ、インド 他）
 ■参加人数：470名



第9回 エメックス会議

会 期：2011年8月28日（日）～8月31日（水）
 開催地：アメリカ・ボルチモア(ボルチモア・マリOTT・ウォーターフロント)
 テーマ：閉鎖性海域の統合的管理を実現するための、説明責任と効果的な情報共有環境の確保
 ■参加国数：25ヶ国（日本、アメリカ、カナダ、韓国）
 ■参加人数：300名



第10回 エメックス会議

(EMECS10-MEDCOAST2013ジョイント会議)
 会 期：2013年10月30日（水）～11月3日（日）
 開催地：トルコ・マルマリス(グランドヤズジ・クラブターバンホテル)
 テーマ：統合的沿岸域管理 (ICM) に関するグローバル・コンgres
 ～教訓から新たな挑戦へ～
 ■参加国数：40ヶ国（日本、トルコ、ロシア、イタリア 他）
 ■参加人数：300名



第11回 エメックス会議

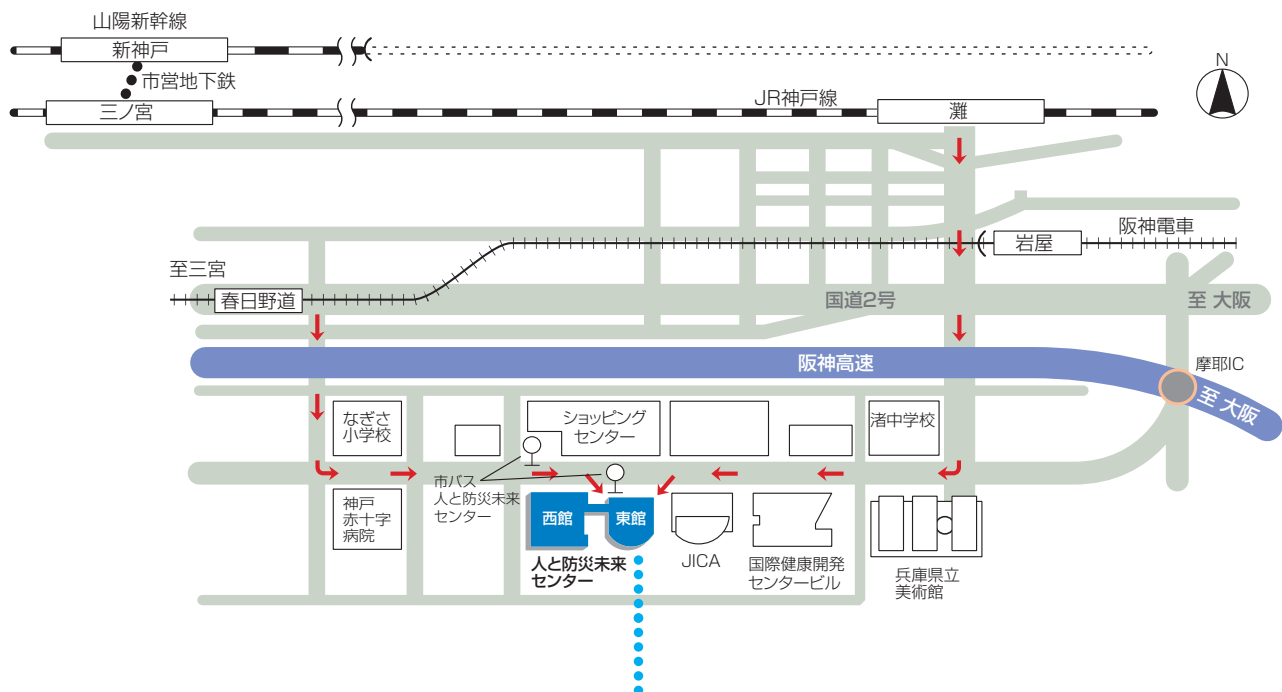
(EMECS11-Sea Coasts XXVIジョイント会議)
 会 期：2016年8月22日（月）～27日（土）
 開催地：ロシア・サンクトペテルブルク(ロシア国立水文気象大学等)
 テーマ：変動する世界における沿岸域・コミュニティのリスクマネジメント
 ■参加国数：21ヶ国（日本、ロシア、アメリカ、中国 他）
 ■参加人数：360名



第12回 エメックス会議

会 期：2018年11月4日（日）～8日（木）
 開催地：タイ王国・パタヤ(ジウムティエン・パームビーチ・ホテル)
 テーマ：復元力のある沿岸海域の実現に向けて～統合的管理のための協力体制～
 ■参加国数：17ヶ国（日本、タイ、中国、韓国 他）
 ■参加人数：300名





アクセス

【鉄道】

- 阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
- JR「灘」駅南口から徒歩12分
- 阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分

【バス】

- 神戸市営バス(路線バス)三宮駅前から約20分
- 阪神電鉄バス三宮駅前から約15分

【車】

- 阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
- 阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
- 阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

※当センターに駐車場はございません。近隣の有料駐車場をご利用ください。



閉鎖性海域の環境の保全と適正な利用をめざして
公益財団法人 国際エメックスセンター
International EMECS Center

EMECS

〒651-0073

神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番2号

人と防災未来センター 東館5F

TEL 078-252-0234 FAX 078-252-0404

URL <http://www.emecs.or.jp>

E-mail secret@emecs.or.jp



エメックスのHPは
QRコード先で閲覧できます